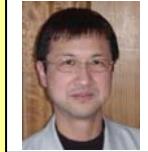


集落の話し合いから生まれた手づくりの「出戸（いでと）型集落営農」

西会津町経済振興課
農林振興係

主査 鎌倉 康裕



出戸集落のある西会津町は、福島県の西北部、新潟県との県境に位置し、町の中心を阿賀川が13の支流を集め西に流れ、北には飯豊連峰を望むことができ、四季折々の姿をみせる自然豊かな町です。

奥川地区・出戸集落は、22戸46人と典型的な中山間地の小さな集落で、高齢化や担い手不足が深刻な悩みとなっています。将来に亘り安心して暮らすことのできる集落づくりを目指すため、何度もなく座談会で話し合いの場をもち、独自のアンケート調査などでも意見を吸い上げ、住民手作りで「出戸型集落営農」の構想を作りあげました。

非農家を含めた集落全戸が知恵を出し合い、計画的な共同利用機械の購入や農道・水路の管理・補修を共同で実施、また、後継者対策として、若手農業従事者や退職後帰農者を対象にした農業機械の運転講習会、帰省時を利用した交流会を開催しています。さらに、高齢者や女性が活躍できる場として、町が推進している健康な土づくりによるミネラル栽培での園芸作物の栽培、特に集落近辺での被害が甚大な猿被害対策として食害にあいにくく、高齢者でも取り組みやすい「ニラ」の共同栽培などを推進し、農業所得の向上にも努めるなど、町内のどの集落よりも先がけてあらゆる対策を実践してきています。集落全体の話し合いから生まれた「出戸型集落営農」の実現が、生き生きと暮らせる集落づくりに欠かせない存在となった今、出戸集落の挑戦は続きます。



*写真はニラの選別作業とコンバイン運転講習



【これまでの主な取り組み】

- 耕作放棄されそうな農地の担い手への集積
- 農用地保全マップを作成し、農道・水路の管理、補修等に利用し共同で作業
- トラクター、コンバインを共同購入して約5ha（約24%）をカバー（目標7ha）
- 22aでニラを共同栽培し、出荷（選別）作業も共同で実施
- 猿被害対策として、当番制による監視・追払い、網・爆音機・電気柵などの共同設置
- 後継者対策として、帰省者・Uターン者、大学生との交流会を開催
- 全戸加入による農用地利用改善団体を設立
- 集落の活性化のため、福島大学生との交流会を開催、さらに共同により交流・文化伝承活動を国の補助事業で実施中

JAグループ福島県域営農センター・福島県水田農業産地づくり対策等推進会議

(福島市飯坂町平野字三枚長1-1 Tel 024-554-3072 Fax 024-554-6022)

http://www.fs-suishin.jp/04_doc/04_vision.html

石筵地区における稻WCSの取組みについて

J A郡山市農業振興グループ
伊藤 成章



郡山市石筵地区は、安達太良山のすそ野、標高450mに位置しており、夏は冷涼で冬は比較的降雪もあり厳しい環境にある。

土壤は、黒色火山灰土壤であり、古くから牧草が栽培され、本市有数の酪農地帯となっている。

標高が高く、水田は未整備であることから、平成14年に酪農自給飼料確保を目的にいち早く稻WCSの生産を開始した。

平成15年には、「石筵粗飼料機械利用組合」を設立し、補助事業を活用して、稻WCS専用コンバインとラッピングマシーンを導入した。

地域の水田の耕作者数は46名、需要者は11名で飼養頭数は乳用牛500頭、肉用牛14頭である。生産された稻WCSはすべて地区内で消費されている。

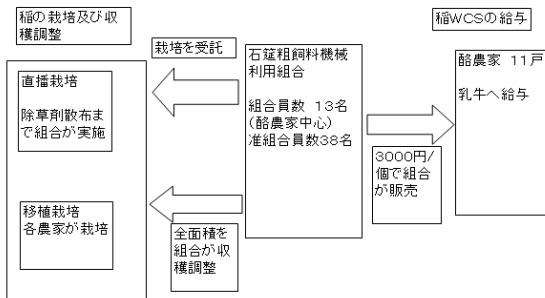
専用機械の導入もあり、年々作付面積が拡大し、平成20年には、専用コンバインを追加導入し、既存機械と合わせ2台の作業体制とし31haを収穫した。

機械利用組合組織にすることで、産地づくり交付金収入と生産調整の地域間調整受委託収入も受けることができ、運営にも大きく関与している。

生産調整対応でありながら、水田を水田として利用できる点、また酪農、和牛繁殖における利用を基本とし、自

給飼料を確保できる点をメリットとして、今後地域内ではさらに面積の利用拡大が期待されている。

石筵粗飼料機械利用組合の組織図



(写真) 収穫調整風景



※ ロールベールは一個180kgで経営規模から1日で全てを給与可能である



※ 平均的な収穫量は1400kg/10a(現物)程度である